

### 人工関節置換術における最小侵襲手術(MIS法)に定評

桑園整形外科の東裕隆院長は、膝関節疾患のスペシャリストとして全国的にも知られ、主に人工関節置換術と前十字靭帯の治療に多くの実績を持つ。「患者さんの病態把握はもちろんのこと、話をよく聞くことを心がけています。あくまでも、切らない治療を基本に湿布や痛み止め、リハビリ、器具や関節注射など保存的治療を最優先に診療の方向性を決め、生活に支障をきたさず、痛みを耐えられないなどの際には最後の手段として手術を行っています」と話す。

特に加齢などによって半月板がすり減り、さらに骨まで損傷をきたす重度の変形性膝関節症に対する人工関節置換術における、最小侵襲手術(MIS法)に定評がある。MIS法は、従来の3分の1から半分程度の傷の長さで済む最新の手術法で、患者の肉体的・精神的負担を軽減し、傷痕も目立たず、術後の回復も早く、整容面でも優れているのが大きな特徴だ。これまでに東院長が手がけたMIS法による人工関節置換術は、一部の患者を除き95%以上で実施し、2012年度191例、累積症例でも955例の実績がある。さらに13年から、手術後の抜糸を必要としない独自の縫い方を実

施。「医療側からは当然な治療の流れの一つですが、患者さん側には不安や恐怖心を伴うため、それを解消する方法として試行錯誤の末に開発しました」と東院長。皮膚そのものは縫わず、皮膚直下の皮下組織のみを丁寧に縫合する方法で、結果的に見た目にもきれいで患者から喜ばれている。

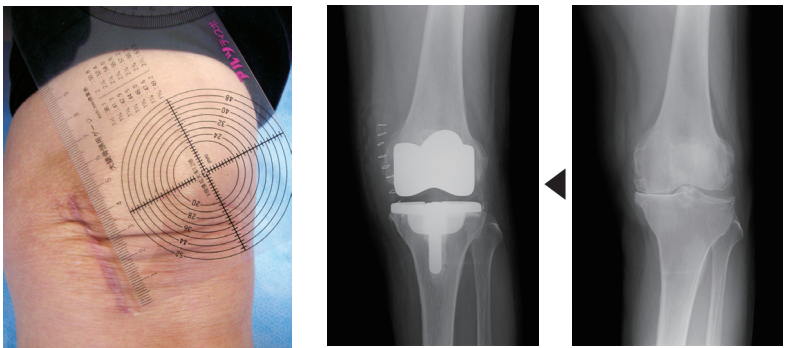
### リウマチ足部変形の関節温存手術や再建手術、内科的治療も好評

膝以外では、リウマチの足部変形に対する外科治療にも積極的に取り組み注目されている。これまでは、主に脱臼した関節そのものを切除する手術が一般的だったが、関節を切除すると変形は修復されるが、足指はブラブラした状態で、指先に力が入らず、安定して歩けないなど、手術による患者のQOL向上は難しかった。そのため同院では、関節を切除せず、骨をくさび形に切ることで真っすぐに治す中足骨短縮骨切術という関節温存手術と、人工趾関節置換術による再建手術を実施している。道内でも温存手術や再建手術を行っている整形外科は少ないため、リウマチ内科医からの問い合わせや紹介患者は全道各地から訪れる。さらにリウマチに関しては内科的治療も進歩し、早期発見・治療によって変形を抑えられることから、確定診断を可能とする超音波

## 膝関節と脊椎のスペシャリストがそろう人工関節置換術や最新リウマチ治療



手術は1時間から1時間半ほどで終了する。患者の体への負担を極力少なくするよう心がけている



(右) 膝の軟骨がすり減った状態  
(左) MIS人工関節置換術後の膝の状態(傷口5cm)

エコー装置の導入をはじめ、内科治療で効果の高いメトトレキサートという抗がん剤や、新たに生物製剤を使った注射や点滴治療にも対応している。「リウマチの初期症状としては手のこわばり、関節の痛みなどがあり、初診で整形外科を訪れる患者さんも多く、以前はリウマチ内科の専門医を紹介していました。患者さんの中には私に診てほしいという人もいます。私に診てほしいという人もいます。リウマチの内科的治療にも取り組み始めました」と、リウマチの早期発見をはじめ、内科的治療から外科的治療まで一貫して行う体制も整備されている。

### 整形外科医が信頼する脊椎疾患のプロ。患者本位の診療を提供

脊椎疾患に関しては、市立札幌

病院整形外科部長を務めるなど、30年以上にわたる豊富な経験と実績を持ち、脊椎疾患のスペシャリストとして全道的に知名度の高い本間信吾名譽院長の存在は大きい。患者はもちろんのこと、他の整形外科医からの信頼も高い。

保存的治療を主体に、患者ごとに必要かつ最適なリハビリテーション・メニューを理学療法士とも相談しながら組み立て、オーダーメイドの治療を提供。椎間板ヘルニアや腰部脊柱管狭窄症といった手術適応となる疾患に対しては、患者の要望や必要性に応じて手術も選択。治療方法をはじめ、手術におけるメリットやデメリットなども詳しく説明し、患者の理解とお互いの信頼関係のもとに治療を開始する。最近では糖尿病や心臓

血管疾患などの合併症を抱える高齢患者や、市外からの紹介患者の手術が多く、総合病院などで出張手術を行う割合が増えている。

さらに、近年増えているという「疾病逃避」にも積極的に対応している。「痛みだけを取り除くことはブロック注射などで可能ですが、本質的治療や原因の解決にはなりません。医師の役割は、痛みの原因を鑑別することであり、問診・視診・触診による診察を重視し、患者さんとのコミュニケーションを通じて、患者さん自身が治ろうとするモチベーションを向上させるなど、心のケアを含む腰痛治療、患者さんに寄り添った医療に取り組みでいきたいと考えています」と本間名譽院長は話す。



病室は個室が中心でネット環境もある



設備の充実したリハビリ室と明るく親切なリハビリスタッフ



ホテルのロビーを思わせる落ち着いた雰囲気の待合室

**院長 東 裕隆氏**  
1992年北海道大学医学部卒業。日本整形外科学会認定整形外科専門医・脊椎脊髄病医・スポーツ医・リウマチ医。日本運動器リハビリテーション認定医。医学博士

**名誉院長 本間 信吾氏**  
1971年北海道大学医学部卒業。日本整形外科学会専門医・代議員、日本リウマチ登録医、日本整形外科学会脊椎・脊髄認定医。札幌市整形外科医会副会長。医学博士

医療法人社団 くわのみえ  
**桑園整形外科**  
<http://www.dr-azuma.net/>

札幌市中央区北8条西16丁目28-30 ☎011-633-3636

整形外科・リウマチ科・リハビリテーション科

診療時間／  
月～金 9:00～12:00 14:00～18:00  
土曜 9:00～12:00  
休診日／日曜・祝日  
(水曜午前は出張医による診察です)  
最寄りアクセス／  
JR桑園駅から徒歩4分